

菊池地域医療構想調整会議

菊陽台病院が担う役割について

平成31年3月20日

医療法人社団熊本清仁会 菊陽台病院

I 現状と課題

1) 理念と基本方針

当院は日本医療評価機構の認定を受けて居りまして、以下の理念・基本方針の下に診療を行っています。

理念 人道に基づいた確かな医療を目指します。

基本方針

- ①地域の医療福祉に貢献します。
- ②医療の質の向上に努めます。
- ③信頼と安全の医療を提供します。

I 現状と課題

2) 診療実績等

①届出入院基本料

- ・地域一般入院料1
- ・地域包括ケア入院医療管理料4
- ・医療療養病棟入院料1
- ・介護療養施設サービス費(強化型)
- ・短期入所療養介護施設(ショートステイ)

②病床稼働率・平均在院日数

	平成28年度		平成29年度	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在院日数
地域一般病床	46.1%	21.7日	51.8%	18.8日
地域包括病床	57.7%	42.1日	68.6%	44.3日
医療療養病棟	73.4%	233.1日	70.4%	322.3日
介護療養病棟	93.0%	525.7日	87.1%	534.6日

I 現状と課題

③救急外来診療実績(年度別患者数)

単位：人

区分	平成28年度	平成29年度
時間外	423	534
休日	598	632
救急車	106	93
計	1127	1259

④職員数(平成31年1月末現在実人数)

区分	医師	看護・介護職員	他専門職	事務職員	計
常勤	6	79	34	11	130
非常勤	12	10	0	0	22
計	18	89	34	11	152

I 現状と課題

3) 特徴

当院は一口で言いますと、典型的な地域密着型ケアミックス病院です。即ち一次救急から、各種の入院治療退院後の在宅医療介護まで地域住民への医療・福祉を総合的に提供しています。具体的には、内科・整形外科・皮膚科・リハビリ科を主な診療科としてプライマリーケアに当たっており、高度で専門性の高い疾患は高次病院へ紹介するシステムを取っています。

病棟は、前述の四種類の病床を有し、様々な病状に対応して居り、退院後のケアの為、在宅部門として、通所リハビリテーション・訪問看護・訪問リハビリテーションを設置しています。

又、長期療養病棟や訪問看護に於いてはターミナルケアや看取りにも取り組んでいます。

I 現状と課題

4) 当院の担う政策医療

① 五疾病

•癌

拠点病院からの紹介患者のmanagement

外来経過観察 訪問看護 通所リハビリテーション

Back bedとしての一般/地域包括病床 入院によるターミナルケア

•脳卒中

回復期入院加療を経た地域患者の受け入れ。

ADL維持のためのリハビリ継続(通所/訪問リハビリテーション)

介護支援専門員と連携し、切れ目のないリハビリテーションの実施

•糖尿病

外来定期観察 訪問看護による内服/インシュリン投与指導管理

教育入院の実施 高齢患者のsick dayにおける緊急入院の受け入れ

血糖降下薬、インシュリン使用入院患者は増加を続けている

I 現状と課題

② 5事業

救急告示病院として1次/2次救急の搬送を受け入れている。

	平成28年度	平成29年度
救急車	106件	93件

③ 在宅医療

訪問看護ステーション・訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所が密接に連携し、在宅患者に医療/介護を継続的に提供している。

訪問看護では在宅で看取りも行っている。

I 現状と課題

5) 他医療機関との連携

地域連携室に専任の担当者を置き、基幹病院や医院、介護施設等、様々な地域の医療機関と緊密な連携を取っている。特に近年は、逆紹介率が増加を続けている。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (平成31年2月まで)
紹介率	10.1%	11.7% ↗	11.8% ↗
逆紹介率	2.5%	3.2% ↗	4.3% ↗

I 現状と課題

6) 当院の課題

～当院の抱える主な課題は以下の通りである。

①人材確保

労働人口の減少に加え、熊本特有の復興需要の為、職員の確保に窮している。

②施設老朽化

地震の被害は少なかったものの、時代の変化に対応する施設や設備の改善が必要となっている。

I 現状と課題

③救急体制

職員不足の為、夜間の救急体制の維持が困難になっている。

④病床稼働率

病床により稼働率にバラつきがあるので、地域連携室を中心とした受け入れ体制の強化が必要である。

Ⅱ 今後の方針

【地域に於いて今後担うべき役割】

これまで同様、地域密着型ケアミックス病院としての機能を維持していく予定であるが、地域の状況に応じて

- ①地域一般病床の一部を転換し、地域包括ケア病床を増床して、需要に備える。
- ②介護療養病棟を介護医療院へ転換する。
- ③日本医療機能評価機構の受審を継続して、医療の質の向上/維持に努める。

Ⅲ 具体的な計画

1) 今後提供する医療機能に関する事項

【4機能ごとの病床のあり方 その1】

平成30年 病床機能報告は以下の通り

単位：床

病床機能	2018年(平成30年)	2025年
高度急性期	0	0
急性期	42	0
回復期	0	42
慢性期	97	47
その他	0	50 (介護医療院)
合計	139	139

Ⅲ 具体的な計画

【4機能ごとの病床のあり方 その2】

- ①地域一般病床32床の内、10床程度を地域包括ケア病床に転換を図り、回復期機能を充実させて、患者の在宅復帰を支援する。
- ②医療療養病床は現状(入院基本料1)のまま維持し、難病患者や医療必要度の高い患者の療養の受け皿となる。
- ③介護療養病床は、介護医療院へ転換し、長期療養を必要とする要介護者に医療的な管理の下での介護・医療を提供する生活施設とする。

Ⅲ 具体的な計画

【4機能ごとの病床のあり方 その3】

～診療科の変更予定はありません

2) 数値目標

	2019年 2月	2025年
病床稼働率	76.3%	90%
紹介率	11.8%	30%
逆紹介率	4.3%	20%

Ⅲ 具体的な計画

3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

① 病床稼働率の向上

地域一般病床・地域包括ケア病床・医療療養病床・介護医療院の各々の機能を十分に活用し、全体の稼働率を上げる。

② 紹介率・逆紹介率向上

①の各病床機能を地域の病医院・介護施設等に広報・周知し、地域連携室を窓口に、連携先の拡充強化に努める。